

ANIMAL CENTER NEWS

No . 18

目次

◆着任のご挨拶

◆前高度 SPF 区域出口扉の沓摺撤去工事を行いました

◆351 飼育室への AP 型ラックの移設について

◆微生物モニタリング検査結果について

◆センター静脈登録者の継続利用の確認について



(写真1) シダレザクラ

◆着任のご挨拶

令和3年4月より学術支援センター動物実験部門長を拝命しました。ご周知のように、当部門では生命医学研究に資する動物実験の支援を行っており、非常に多くの方々にご利用いただいております。また、例年、動物実験の成果を含む数多くの研究論文が本学から発表されております。引き続き利用者の皆様の研究のお力になれるよう、円滑な施設運営に努めてまいります。

さて、わたくしは、大学院時代から20年以上にわたり動物実験に携わっており、様々な機関の動物実験施設をみてまいりました。利用者目線に立った感想を率直に述べさせていただきますと、当動物実験センターは非常にユーザーフレンドリーだと思います。これは、前任の今井先生をはじめ、施設職員の方々のご尽力と、適切な施設利用を遵守してくださる皆様のおかげに他ならないと実感しています。

研究の方に目をむけますと、近年の生命医学研究技術の急激な進展により、数年前までは考えられなかった、あるいは専門性が高く、多大な労力を要するような研究も、幅広く実施可能になってきました。ゲノム編集法による疾患モデル動物作出の迅速化、光遺伝学による神経機能の解明、二光子顕微鏡を用いた生体イメージングなど、例を挙げると暇がありません。優れた研究を世に出すためには、最先端の技術を用いることが不可欠な時代になってきました。動物実験部門におきましても、利用者の皆様のニーズに応えられるよう職員一同努力してまいりたいと思っております。現在、承っている機器利用や受託業務に加えて、利用法や技術サポートなどご要望がございましたら、お気軽にご相談いただけますと幸いです。利用者と施設の密な連携が良好な研究を生むことと信じております。

最後になりますが、動物実験の適正な実施のご理解とご協力を改めてお願いするとともに、皆様からのご指導ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

動物実験部門 部門長 金川 基

◆前高度 SPF 区域出口扉の沓摺撤去工事を行いました

ケージ等の転倒防止措置のため、センター3階の前高度 SPF 区域出口に設置してあった沓摺の撤去工事を行い、ご利用の皆様にも更に安全にご利用いただけるようになりました。

◆351 飼育室への AP 型ラックの移設について

センター3階 351 飼育室に、AP 型ラックを 4 台移設し、稼働を開始いたしました。
今後はもう 1 台増設し、5 台を収容する飼育室とする予定です。是非ご利用ください。

◆微生物モニタリング検査結果に関して

令和 3 年 3 月に各飼育室の微生物モニタリングを実施しました。
各項目、すべての飼育室で陰性でした。
詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.adres.ehime-u.ac.jp/bumon/dbab41db7185632d5195881365b1d12d09f4488f.pdf>

◆センター静脈登録者の継続利用の確認について

新年度に入りましたので、センター静脈登録者の継続利用の有無を各講座に確認させていただきます。
各講座の事務担当宛にメールを送信します。登録者全員の継続の有無をご確認いただき、期限までにメールにて返信にご協力下さいますようお願いいたします。